令和５年度　『全国学力・学習状況調査』の傾向と対策

加古川市立野口南小学校

１．各教科の結果と分析

〇国語　文章を読んで的確に文意を捉えたり、中心となる語や文を見つけて要約するような問題は正答率が高い。一方、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめたり、複数の意見を比較しながら目的や意図に沿って自分の考えをまとめるような問題や、図表やグラフ等を用いて自分の考えがより伝わるように工夫することに苦手意識がある。

〇算数　基本的な計算能力、グラフや表などから数量を正確に読み取ったり、数量間の関係を数学的に捉える力は身についている。一方、（全国的な傾向と同様に）百分率を用いて「割合」を表す問題や、公式をあてはめるだけに終わらず、計算の意味や、図形の性質を理解して解く問題が苦手である。

２．児童質問紙に見られる本校６年生の特徴

①８割をこえる児童が「自分には良いところがある」と答え、９２％が「先生は良いところを認めてくれる」と答えるなど、自己肯定感が高く、多くの児童が将来の夢や目標を持っている。

９５％が「友達との関係に満足」しており、「困りごとや不安を先生や学校の大人に相談できる」と答えた児童が全国平均を上回り、９割の児童が「学校に行くのが楽しい」と感じている。

②９５％の児童が「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と答え、９割をこえる児童が「人が困っている時は進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」と答えている。

③基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）は概ね良好である。

④大半の児童が「算数は大切」「国語は大切」と答え、学習の必要性を理解しているが、「算数が好き」「国語が好き」という児童は６割程度にとどまっており、苦手意識を持っている児童が少なくない。

⑤家庭学習の習慣がついている児童は全国平均に比べてやや少なく、学習時間も短い。「読書が好き」と答えた児童は６割にとどまっている。

３．改善への取組

（１）「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている」と答えた児童が全国平均を上回っており主体的・対話的で深い学びに向けた授業を積み上げていることを児童自身が実感している。引き続き、『協同的探究学習』の手法（自分の考えをまとめ、級友と意見交換し、さらに自分の考えを深めていく）に沿った授業を推進していく。

・多様な考えが可能な課題を提示し、学習を深める工夫をする。

・授業において、自分の考えを発表したり、記述する機会をより多く確保する。

・思考の過程やまとめを、根拠を示して自分の言葉で表現することを指導の重点とする。

（２）ICT 等を活用して反復演習を行い、基礎基本事項の定着をめざす。

（３）今年度から『音読タイム』を取り入れているが、「読むこと」に親しみ、「読むこと」の楽しさを味わわせて、「ことばの力」の育成、読書習慣の醸成につなげる。

（４）引き続き、道徳の時間や特別活動（行事・学級活動）を中心に、自他の違いを認め、互いを思いやる心情を養う。

（５）「学級生活をより良くするために学級会で話し合い、お互いの良さを生かして解決方法を決めている」と答えた児童が８割をこえ、全国平均を大きく上回った。これからも、集団（社会）の一員として様々な問題を自分ごととして捉え、互いの意見をすり合わせながら、より良い解決法を考えようとする姿勢を育む。